

朝日小学生新聞

あさひ しんぶん

朝日小学生新聞の特別号

〒104-8433 東京都中央区築地 5-3-2
「朝日らんたろう新聞」
電話 03-3545-5226 FAX 03-3545-0978
e-mail : ran@asagaku.co.jp
企画・制作 朝日学生新聞社広告部
© 朝日学生新聞社

「朝日小学生新聞」ご購入のお申し込み
お近くのASA(朝日新聞販売所)
ウェブサイト www.asagaku.com
電話 0120-415843
FAX 0120-415853 (いずれも通話無料)

子どもページ

- 1,7面 足でボールあそび!
- 2面 キタシロサイのピンチ
- 3面 らんたろうとクイズ

ママのページ

- 4,5面 気軽にプログラミング教育

サッカー
みたいに
あし

足で

かわはら はやと 先生

ボールあそび!

ボールあそびは すき?
手でなげたり、うけたり
キャッチボールだけでなく、
あしで けりながら はしたり、
ともだちに パスをしたり。
ひとりでも 大ぜいでも
あそべて たのしいよ。

あし 足の どのばしよをつかうかで ボールの ほうこうや つよさが コントロールできるよ

ボールタッチの じゅんぴ うんどう

くりかえし タッチしよう。
なんかい れんぞくで タッチできるかな?



かるく ジャンプしながら、
みぎ ひだり みぎ ひだり あし
右→左→右→左と 足を
こうごに かえて ボールの
てっぺんに タッチする。

インサイドキック

あし 足の うちがわの まんなかでキック。
あし さき 足の先をつかう「トーキック」よりも、
ボールをコントロールしやすい。



みぎ ひだり みぎ ひだり
右→左→右→左と こうごにキック。
おなじいちで できたら、右足で
すこ まえ 少し前にキック。つぎに 左足で前に
すこ 少しキックしてドリブルの
れんしゅうもしてみよう。

アウトサイドキック

あし 足の そとがわをつかってキック。
あし ひと となりの人に すぐにパスができる。



よこに おし出すように 足をうごかさう。
キックした足で、ボールの うえをおさえてとめる。



みぎあし ひだりあし
右足、左足、それぞれで
れんしゅうしよう。



1めん「サッカーみたいに^{あし}足でボールあそび!」の つづきです

ボールの うごきを よそくできるかな?

ボールあそびが じょうずになるコツは、ボールと なかよくなること。
ボールをつかって たくさん あそぼう!



ボールを ^{うえ} 上に上げて キャッチしよう。



こんどは、クルッと1かいてんしてから キャッチ。
つぎは、あたま、かたを さわってからキャッチ。



①ができるようになったら、ボールが ^て 手もとにおちてくるあいだに ^て 手をたたいてからキャッチしよう。1かい、2かいと ^て 手をたたく ^て かいすうを ふやしてみよう。なんか ^て 手をたたけるようになるかな?



からだのうしろで ボールを ^{うえ} ポンポンと 上に ながる れんしゅうをしよう。



みんなであそぼう

^て 手をつないで、わになり、中に入れた ^{なか} ボールを ^い わのそとに ^だ 出さないように ^か かるくキックして ^{まえ} パスしながら 前にすすむ。
※もくてき(ゴール)を きめて、チームで きょうそうすると たのしいよ。



かるくキックしながら みんなで 前へ



1めん れんしゅうしたインサイドキック、アウトサイドキックをつかいながら ボールを パスしてね。ほかに、ゴールまで ドリブルですすみ、とうちゃくしたら ボールにすわる きょうそうなど、いろいろ ゲームを かんがえて あそんでね。



ゲームのあとは、かっても まけても、「ありがとう!」といって あくしゅ! これを「スポーツマンシップ」といふよ。



もっと
しりたい
おや子で
キャッチ!

おうちの方へ

「不自由さ」の中で楽しめるサッカー

サッカーは、足しか使えないスポーツですが、その「不自由さ」こそが魅力。サッカーを始めたばかりの子どもはどうしても手が出てしまいがちですが、やがて足だけを使って工夫することを楽しむようになります。人生でも思い通りにいかないことは必ず出てきますので、子どものうちに「不自由さ」を覚えることは、経験として生きてくるはずですよ。

低学年まではチームプレーの概念があまり強くはないようです。ある時パスが通り、「うれしかった」などの経験を重ねていくことでチームで協力しあう喜びも覚えていきます。

またボールをけったり投げたりしているうちに、どう投げたらどう落ちるのかなど感覚をつかみ、空間を把握する力がつきます。こうした力はほかの教科にも生きてくるといいます。

好きになって楽しめれば、子どもは自然と伸びる

親御さんが「ドリブルができるように」「正確なパスを」など成果ばかりを求めると、子どもによってはプレッシャーになり、楽しめなくなることも。最初はボールで遊ぶというおおらかな気持ちで、楽しいという気持ちを育てましょう。ほかの習い事でも同じだと思います。

私は、学校の体験会の最初に「今日はたくさん失敗しようね」と伝えています。すると子どもたちは気持ちが楽になり、いっぱいトライできるようになります。子どもはそれぞれ大きな可能性を秘め、個性も人それぞれ。いい部分を伸ばして、自信をつけさせることが大切だと思っています。

サッカーを通して国際人を育てたい

私が所属するスクールでは、サッカーを通じて英語を教えています。僕自身、中学卒業後にアメリカへ留学し、海外の文化や英語に触れた経験が、その後の人生にとっても役立っています。以前は中学校で英語を教えていましたが、教科や試験勉強としてやっていると、英語を嫌いになってしまう子どもが多いのが残念で……。サッカーをしながら自然と言葉が出ますし、日常会話も覚えやすいと思います。

グローバル化もさらに進み、自分で考えて行動し、堂々と意見を言える能力がより求められるようになるでしょう。世界で活躍できる国際人を育てたいと思っています。

今回のナビゲーター

グローバルアスリート
英語サッカースクール
河原隼人先生

ネイティブ&バイリンガルの指導員が、サッカーを通して英語も楽しく指導。東京、神奈川、千葉、埼玉に17校。

<http://globalathlete.jp/english-soccer/>

